

新興感染症の征圧を目指して

(国立国際医療研究センター 国際ウイルス感染症研究センター長／
東京大学医科学研究所 ウイルス感染部門 特任教授)
河 岡 義 裕

インフルエンザウイルスは、毎年、冬に流行し乳幼児や高齢者において死亡の原因となるとともに、数十年に一度新たなウイルスが出現し世界的な大流行(パンデミック)を起こします。私達は、インフルエンザウイルスを人工合成する遺伝子操作系(リバーシ・ジェネティクス)を開発しました。この技術は、高病原性H5N1ワクチンの作製に使われています。この技術を用いてパンデミックウイルス出現のメカニズムについて研究を行っています。インフルエンザのコントロールにはワクチンと抗インフルエンザ薬が用いられます。しかし、ワクチンの有効性には限界があり、インフルエンザ薬も効果は高いものの、耐性ウイルスの出現が懸念されます。そこで私達は、新規抗インフルエンザ薬ならびにワクチンの開発を目指して研究を行っています。

一方、2013年の暮れに、西アフリカにおいてエボラウイルスの流行が始まりました。これまでに3万人以上の感染が報告されています。私達の研究グループでは、これまでエボラウイルスの基礎研究ならびにワクチンの開発を行ってきました。また、シエラレオネで研究活動も続けています。

また2019年の暮れには、中国武漢で新型コロナウイルスが出現し、これまで人類は未曾有の危機に晒されています。

本講演では、現在私達の研究グループで行っているインフルエンザ、エボラウイルス、そして新型コロナウイルスの研究について御紹介させていただきます。



プロフィール

河岡 義裕(かわおか よしひろ)

国立国際医療研究センター
国際ウイルス感染症研究センター長
東京大学医科学研究所 ウイルス感染部門
特任教授
ウイスコンシン大学 獣医学部 教授

●略 歴●

1980年
北海道大学獣医学部卒業
獣医師免許取得
1983年
同大学院修士課程修了
鳥取大学農学部獣医
微生物学講座助手
1983年
獣医学博士(北海道大学)
St. Jude Children's Research
Hospital Tennessee, Postdoctoral
fellow.
1996年
St. Jude Children's Research
Hospital, Tennessee, Member
(教授研究員)
1997年
ウイスコンシン大学獣医学部 教授
1999年
東京大学医科学研究所
細菌感染研究部教授
2000年
東京大学医科学研究所 感染・免疫部門
ウイルス 感染研究分野教授
2005年
東京大学医科学研究所
感染症国際研究センター長
2021年
東京大学医科学研究所
ウイルス感染部門 特任教授
2021年
国立国際医療研究センター
国際ウイルス感染症研究センター長

●受賞／受章●

1991年
日本獣医学会賞
2002年
野口英世記念医学賞
2006年
文部科学大臣表彰 科学技術賞
2006年
ロベルトコッホ賞
2007年
武田医学賞
2010年
日本農学賞・読売農学賞
2010年
高峰記念第一三共賞
2011年
内藤記念科学振興賞
2011年
紫綬褒章
2013年
米国科学アカデミー外国人会員
2015年
国連教育科学文化機関(ユネスコ)
カルロス・フィンレイ賞
2016年
日本学士院賞